SPARTAN OS

ANUBIS

詳細解説 · プロモーター、リーダー、パートナー向け

Spartan OS
Anubis Chain上

誰が構築したのか、チェーンがすでに何を実現しているのか、Spartan OSがその上で何をするのか、2つのトークンとプログラムがどう機能するのか、そして本資料のすべての主張をどこで確認できるのか。



ANUBIS LABS · 最初のエコシステム・プロジェクト

国際配布用 · 日本語版

2026年9月

目次

本資料の内容

全7部構成です。最初の2部では、チェーンとそのインフラを説明します。中間の3部では、Spartan OS、その最初のプロダクト、そしてトークンを説明します。最後の2部では、市場の背景を示し、読んだ内容をどこで確認できるかを案内します。

I なぜ存在するのか 04
II Anubis Chain 07
III Spartan OS 12
IV TempleRaidとToken Router 16
V RMとGD 20
VI 市場の背景とロードマップ 24
VII 検証、リスク、用語集 27

読み方

プロジェクトに由来する数値には、すべてプロジェクトによるものであることを明記しています。公開情報で確認できる数値には、すべて出典を記載しています。日付が発表されていない箇所では、推測ではなく[date]と表示しています。この資料を使って説明する場合は、これらの区別を守ってください。それこそが本資料の信頼性を支えています。

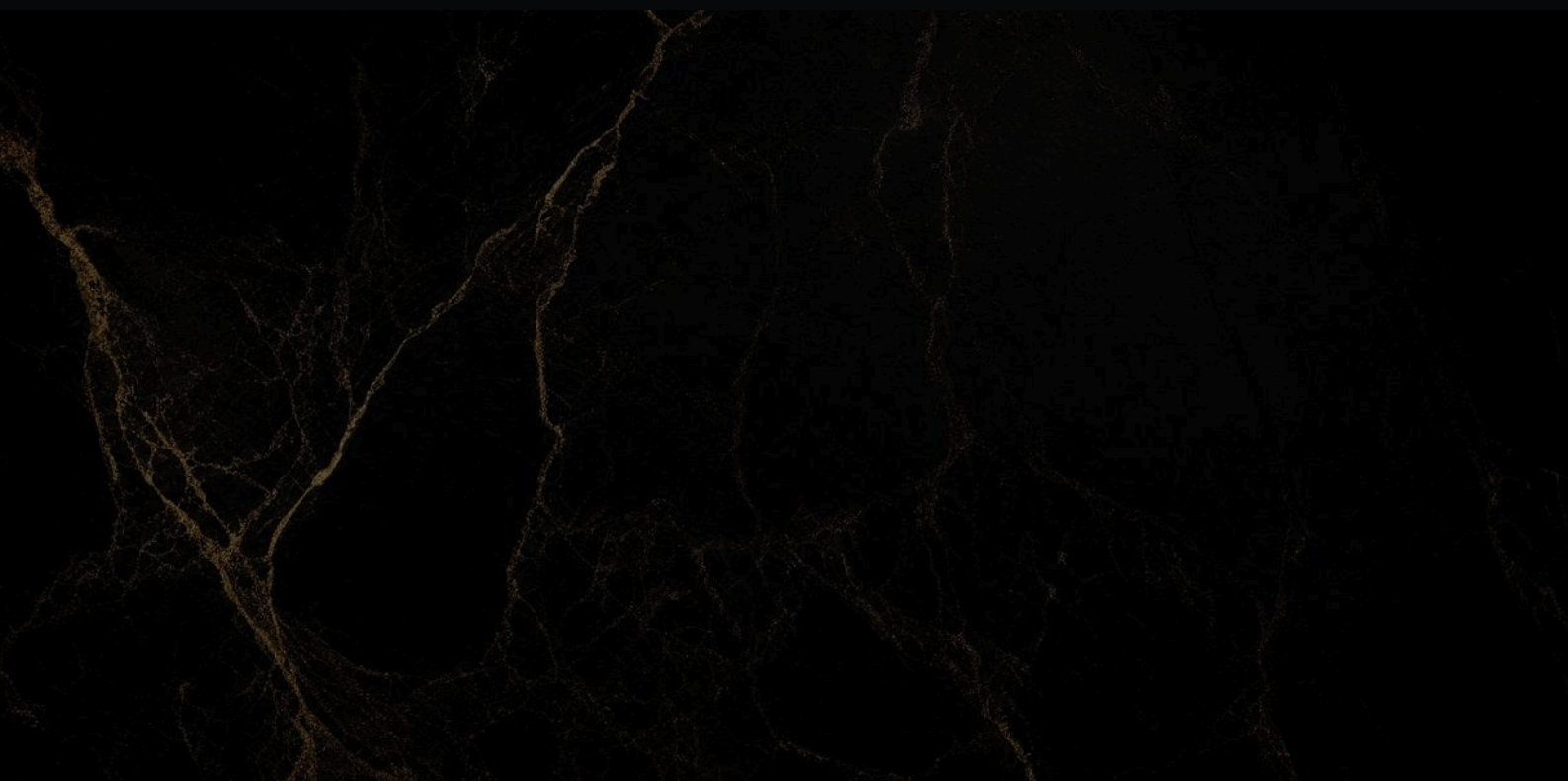
本資料の対象読者

新しい相手に、自分の言語でプロジェクトを説明する必要があるプロモーター。最初の質問だけでなく、2つ目、3つ目の質問にも答えられるだけの深い理解を必要とするリーダー。何が稼働中で、何が計画中で、何が主張にとどまるのかを知りたいパートナー。技術的な予備知識は前提としていません。技術用語が避けられない場合は、巻末の用語集で定義しています。

本資料は、何かの購入を勧めるものではありません。存在するものと、その仕組みを説明するものです。資金に関する判断は、読者自身が行うものです。

関連資料

本詳細解説は、2つの短い資料と1つの技術資料の間に位置します。6枚のワンページャーとピッチデッキは、同じ内容をより少ない分量でまとめています。技術ガイドには、ウォレット、ブリッジ、gasDAIの手順を、スクリーンショットとコントラクトアドレス付きで収録しています。別冊のリーダー向け資料では、コミュニティ・プログラムとその条件を説明しています。



01

第 I 部

なぜ存在するのか

パブリック・ブロックチェーンは、難しい技術的課題をすでに解決しています。その大半がまだ解決していないのは、一般の人がアプリケーションをもう一度開く理由を与えることです。

インフラは完成しました。訪れる理由は、まだありません。

2017年から2025年にかけて、業界はレールを敷きました。レイヤー1チェーン、ロールアップ、スマートフォンで使えるウォレット、ブリッジ、オーダーブックのない取引所、数秒で決済されるステーブルコイン。チームが思い描くどんなアプリケーションも、今では週末の間に構築してデプロイできます。

その結果、市場には使う理由よりも多くのチェーンが存在しています。新しいネットワークがローンチし、トークンを上場し、ロードマップを公表し、そして特に来る理由のないユーザーを待ち続けます。技術的に難しかったのはインフラでした。しかし商業的には、それが簡単な部分だったことがわかりました。

Spartan OSは、この観察から出発しています。チームの最初のプレゼンテーションから引いたその枠組みは、3つの段階で構成されています。

過去

インフラが成熟

チェーン、ウォレット、開発者ツールは、構築がもはやボトルネックではない段階に達しました。コストは下がり、速度は上がりました。ツールは退屈なものになりました。ツールとは本来そうあるべきものです。

現在

ユーザー・ゲートウェイが不足

人には、ネットワークに入る明確な理由と、翌日にまた戻ってくる理由が必要です。その理由となるのが、頻度が高く負担の小さいインタラクションです。新しいプラットフォームが最初にうまく機能させるアプリケーションは、昔からゲームです。

これから

AIがディストリビューションを変える

レコメンド、生成、自律型エージェントによって、アプリケーションがユーザーを見つける方法も、ユーザーがアプリケーションを見つける方法も変わります。成長はキャンペーンではなくなり、動き続けるシステムになります。

ゲートウェイとは何か

Spartan OSがこの言葉を使う意味でのゲートウェイとは、報酬をもらったからではなく、自分が使いたいから開くアプリケーションのことです。ゲートウェイには3つの特性があります。各セッションが短いこと。各セッションの結果がすぐに見えること。そして、ウォレットがすでに接続され、残高もすでにそこにあるため、準備なしに戻ってこられることです。

ゲームは、ほかのどのカテゴリーよりもこれらの条件を満たしています。特定の種類のAIツールも同様です。数秒で何かを生成するジェネレーター、質問に答えるアシスタント、小さなタスクをこなすエージェント。これらに共通するのは、日単位ではなく、秒単位や分単位で回るループです。

Spartan OSの賭けは、簡単に言い表せます。チェーンに人々が戻ってくるゲートウェイがあれば、チェーン上のほかのすべてが恩恵を受けます。取引所には出来高が、ブリッジには利用が、開発者にはユーザーが、トークンには用途が生まれます。ゲートウェイがなければ、同じチェーンも誰も通らない道路にすぎません。

主張を端的に言えば

Anubis Chainは道路を提供します。Spartan OSは、その道路を走る最初の理由です。2026年9月6日から稼働しているTempleRaidは、最初の目的地です。

誰が構築したのか

Anubis Foundation：財団が公表している実績によれば、2年間、5大陸、20か国、100を超えるプロジェクト。そのうち3つが、本資料のすべてを形づくっています。

ORIGIN

LGNS上のDeFi 3.0

ステーキング、ボンド、プロトコル保有流動性、そしてグローバルなコミュニティ。AVEのスナップショット時点で、保有者250万人、流通時価総額14億ドル、プール$200M、一日の取引数91,000件。2年が経った現在も、約5,500万ドルがPolygon上のOriginプールに残っています。

WEBKEY · MELOS

ユーザーがWeb3に入る方法と、そこで何をするか

一方にアイデンティティとゲートウェイ、もう一方にエンターテインメント。財団は、自らのプロダクト全体で合計1,600万人のユーザー基盤があるとしています。

ANUBIS CHAIN · ANUBIS LABS

独自のレイヤー1と、そこを埋めていく部門

2026年4月にメインネット稼働。Anubis Labsは、その上で展開するプロジェクトを選定し、資金を提供し、支援します。Spartan OSはその最初のプロジェクトで、OriginとAwakeを動かしてきたコードベース上に構築されています。スマートコントラクト137本、CertiKへの監査申請済み。

ほとんどのプロジェクトは、ゼロから始まります。ユーザーも、資産も、実績もありません。このプロジェクトは、すでに財団の名前を知っている数百万人の保有者と、財団が管理するチェーンから始まります。このセクションの数値はすべて財団自身によるものです。Originのスナップショットはave.aiで確認できます。

02



第 I I 部

Anubis Chain

PLONKゼロ知識証明プロトコル上に構築され、Ethereumと完全な互換性を持つレイヤー1です。手数料はステーブルコインにペッグされた単位で支払われ、ユーザーが何を開示するかを選べるプライバシーモデルを備えています。

数字で見るチェーン

Anubis Chainは2026年4月にメインネットへ移行しました。他のチェーン上のロールアップではなく、独立したレイヤー1です。チェーンIDは6714です。

100M+ 累計トランザクション数	18M+ アドレス	16K+ デプロイ済みスマートコントラクト数
1.9K+ チェーン上のトークン数	~1 s 平均ブロック生成時間	GASDAI ドルにペッグされた手数料、毎日同じ水準

ネットワークの数値は、2026年9月のAnubis Chain定期データレポートの公表どおりで、browser.anubispace.orgで確認できます。チェーンはThe Graphによってインデックス化され、Blockscoutで閲覧でき、LayerZeroとStargateを通じてクロスチェーン接続されています。以前のマーケティング資料では、毎秒2,400件以上のトランザクション、450msのブロック生成時間、10ms未満の証明検証、52ノード中21のアクティブなバリデーターという数値が挙げられています。これらはプロジェクト自身の数値であり、本資料では事実として再掲していません。

PLONKとは何か、なぜここで重要なのか

ゼロ知識証明とは、ある主張が正しいことを、その背後にある情報を明かさずに示せる仕組みです。PLONKは、そうした証明方式の一つです。実用上の利点は、証明システムを一度セットアップすれば、アプリケーションごとに新たなセレモニーを行う必要がなく、どのプログラムにも再利用できることです。証明はサイズが小さく、すばやく検証できます。これにより、Anubisはオンチェーンで10ミリ秒未満での検証を実現しています。

ユーザーにとっての結果は、公開された監査可能性を手放すことなく、プライベートな取引を扱えるチェーンです。ネットワークは、誰が誰に何を送ったかを公開せずに、取引が有効であること、送信者に資金があったこと、ルールが守られたことを確認できます。Anubis Foundationはこの効果をZcashやMoneroになぞらえ、プライバシーが新たな資金を呼び込むチェーン最大の魅力になると見込んでいるとしています。これが、次に説明するプライバシーモデルの土台です。

ユーザーにとって重要な3つの設計

プライバシー

選択的開示

取引はEthereumと同様、デフォルトで公開されます。ユーザーは必要な場面で身元を秘匿でき、その間もコントラクトの動きは監査可能なままです。Anubisはその結果を、人にとってはプライベート、プロトコルにとっては透明、規制当局にとっては実務上対応可能なもの、と説明しています。

コスト

ガス代はgasDAIで支払い

手数料は、DAIにペッグされた単位で決済されます。取引のコストは閑散な日も混雑した日も同じで、価格変動の大きいガストークンを保有する必要はありません。gasDAIは、公式ブリッジを通じて1回の手順で入手できます。

移行

Ethereumをそのまま

Ethereum向けに作られたものは、変更なしでAnubis上で動作します。Solidityのコントラクト、MetaMask、Hardhat、Etherscan型のエクスプローラーなど、ツールチェーン全体がそのまま使えます。チームは書き直す必要がありません。再デプロイするだけです。

3つのうち、プロモーターが一文で説明できるようにしておくべきなのは、ガス代の仕組みです。ほとんどのチェーンでは、何かを支払う前に、まずそのチェーン独自のトークンを購入する必要があり、そのトークンの価格は変動します。Anubisでは、手数料の単位がドル建てステーブルコインにペッグされています。ユーザーが取引を承認するときに目にする金額が、そのまま支払う金額です。

すでに稼働中：インフラ層

このページに載っているものは、すべて今日開くことができます。それが、ロードマップだけのチェーンと、実際に機能する経済を持つチェーンとの違いです。

構成要素	機能	状況と検証
RocketSwap	ネイティブの分散型取引所（DEX）。Uniswap V2の設計：流動性プール方式で、オーダーブックはありません。RMはここでUSDTと取引されます。	稼働中。CertiK Skynetに掲載。
Anubis Bridge	Ethereum、BNB Chain、Polygonからの公式1対1ブリッジ。USDT、USDC、DAI、ETH、BNB、POLを移動できます。gasDAIを発行。	app.anubisbridge.comで稼働中。ブリッジのコントラクトはetherscan.ioで確認可能。
GaleBridge	同じルートを持つ2つ目の公式ブリッジ。	galebridge.netで稼働中。2025年10月にCertiKが監査：指摘事項3件、重大なものはなし。
Bridgers	Anubisを送付先として追加した、サードパーティのクロスチェーン・ルーター。	稼働中。Anubisチームからは独立。
Capybara Launch	新しいエコシステム・プロジェクト向けのローンチパッド。ObscuraとAstraCoreが並行して運営されています。	稼働中。

構成要素	機能	状況と検証
エクスプローラーとインデックス	Blockscoutによるブロックエクスプローラー。チェーン上のすべてのトランザクション、コントラクト、アドレスを表示。データはThe Graphがインデックス化。	browser.anubispace.orgで稼働中。
LayerZero · Stargate	チェーンへのクロスチェーン・メッセージングと流動性ルート。財団は、2026年9月時点でLayerZeroとの統合を表明しています。	Anubis Foundationの公表どおり。
ウォレット	Bitget Wallet（統合済み、ウォレット内スワップとクロスチェーンに対応）、OKX Wallet、TokenPocket、Binance Wallet、MetaMask（カスタムネットワークとして追加）。	稼働中。手順は技術ガイドに記載。

ブリッジについては、一言触れておく必要があります。ブリッジは多くのチェーンが攻撃を受けてきた箇所であり、プロモーターが最も厳しい質問を受ける箇所でもあります。Anubisは2つの公式ブリッジを運営しており、どちらもコントラクトを公開しています。そのうち1つは第三者による監査を完了しており、重大な指摘はありません。3つ目のルートとしてBridgersがありますが、これはAnubisチームの管理下にはありません。ユーザーは公式ブリッジを使い、何かを承認する前に、anubischain.aiでコントラクトアドレスを照合してください。

Anubis Labs

Anubis Labsはインキュベーション部門です。チェーン上で構築するプロジェクトを選定し、資金を提供し、ローンチまで支援します。Spartan OSはその最初のコンシューマー向けプロジェクトであり、本資料全体で2つのブランドが並んで登場するのはそのためです。

Anubis Foundationは、Anubis Chainエコシステムへの$300Mの拠出を発表しています。Spartan OSはOriginのコードベース上で137のスマートコントラクトを稼働させており、CertiKへの監査申請を済ませています。どちらの数値もプロジェクト自身によるもので、本資料のために独立した検証は行われていません。

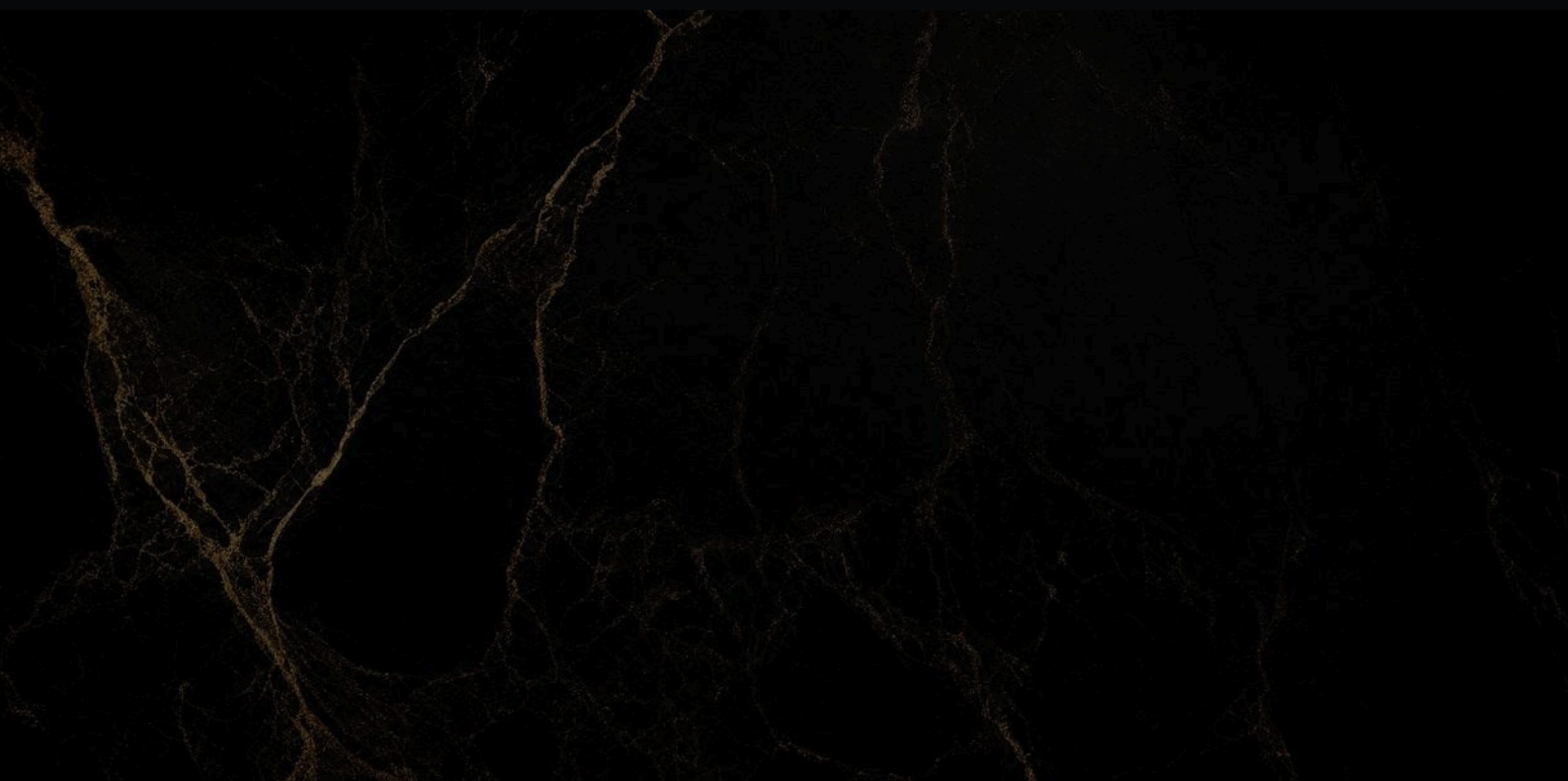
公表されているパートナー

DeBox（登録ユーザー2,600万人と公表）· DappOS · xBubble · Ads3 · Golden Pact · REI Network · Bitget Wallet · GoPlay。パートナー一覧はAnubis Chainの公表どおりです。各パートナーとの関係の性質は、統合からディストリビューション契約までさまざまです。

ユーザーはチェーンをどう体験するか

最初の10分間がシンプルでなければ、ブロックチェーンを一度も使ったことのない人にとって、ここまでの話はどれも意味を持ちません。Anubisでは、その流れは次のとおりです。ウォレットにネットワークを追加するか、すでにネットワークが組み込まれているBitget Walletを開きます。Ethereum、BNB Chain、Polygonからステーブルコインをブリッジします。同じ手順で、手数料用のgasDAIを受け取ります。RMとGDをインポートします。TempleRaidまたはRocketSwapを開きます。

5つのステップです。技術ガイドでは、各ステップをスクリーンショット付きで順に説明しています。ワンページャー「はじめかた」は、それらを1ページにまとめています。





03

第 I I I 部

SPARTAN OS

コンシューマー層。1つの目的を持つ5つのシステム。その目的とは、今日チェーンを使う理由と、明日また戻ってくる理由を人に与えることです。

1つの目的、5つのシステム

チェーンは決済を担います。インフラは取引とブリッジを担います。Spartan OSは、ユーザーにやることを与えます。チームはこれを、オンチェーンのエンターテインメントとAIのためのオペレーティングシステム、すなわちユーザー、トークン、ディストリビューションを共有する5つのシステムだと説明しています。

01 · 稼働中

ユーザー・ゲートウェイ

繰り返し訪れることを前提に作られた、オンチェーンゲームとインタラクティブなアプリケーション。最初のアプリケーションはTempleRaidです。各アプリケーションは、同じウォレット、同じトークン、同じアイデンティティにつながります。

02 · 計画中

AIディストリビューション

アプリケーションを、それを使う可能性が最も高いユーザーと結びつけるレコメンド層。Spartan OS上でローンチする新しいアプリケーションが、ゼロから始めることのないようにするものです。

03 · 計画中

コンピュート・エンジン

計算能力をプールし、AIタスクをスケジューリングし、それを必要とするアプリケーションの利用量を計測します。チェーン全体のAIコンピュート層となることを目指しています。

04 · 稼働中

Agent Token Hub（エージェント・トークン・ハブ）

AIエージェントが作成され、トークン化され、アプリケーションから呼び出され、決済される場所。第IV部で説明するToken Routerが、その中核となる仕組みです。

05 · 計画中

開発者ネットワーク

単独ではなく、Spartan OSを通じてAnubisにアプリケーションを持ち込むサードパーティのチーム向けの、ツール、インターフェース、ディストリビューション。

共通

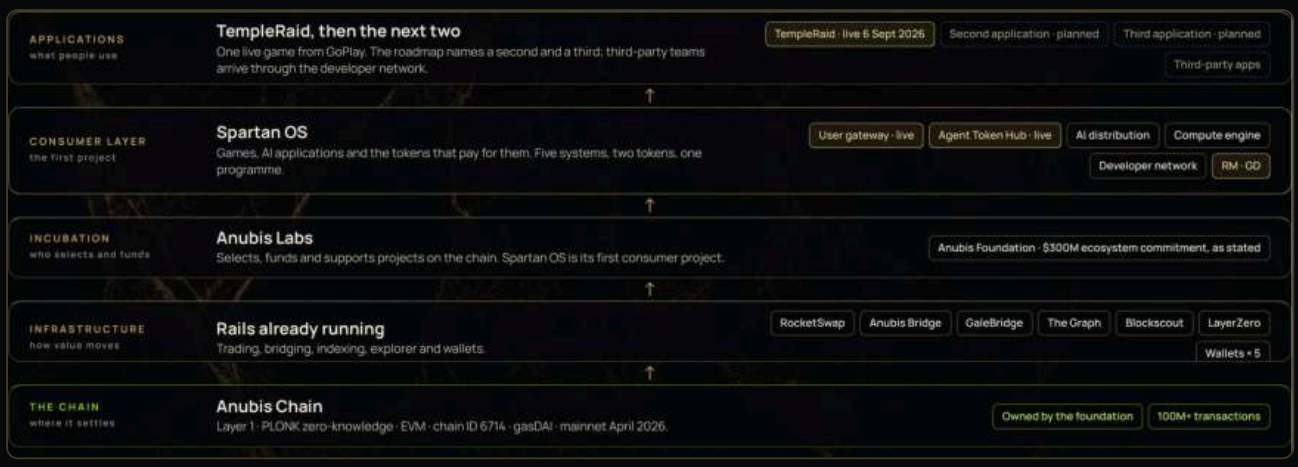
トークンとアイデンティティ

RMとGDは、すべてのシステムを通じて流通します。一度のウォレット接続で、ユーザーはあるアプリケーションから次のアプリケーションへと移れます。

5つのうち2つが稼働中です。TempleRaidによるゲートウェイと、RMおよびGDトークンとToken RouterによるAgent Token Hubです。残る3つはロードマップ上にあります。プロモーターがSpartan OSを紹介する際は、この区別をぼかさずに伝えるべきです。5つすべてが存在するかのように語って後で訂正されるよりも、「2つは稼働中、3つは計画中」と言うほうが、強い立場に立てます。

各要素のつながり

図は下から読みます。Anubis Chainがすべてを決済します。インフラ層は資産を持ち込み、それを取引します。Anubis Labsは、何を構築するかを選定し、資金を提供します。Spartan OSはその上にコンシューマー層として位置し、アプリケーションはSpartan OSの上に位置します。実線の枠は稼働中、破線の枠は計画中です。



システム01 · ユーザー・ゲートウェイ

ゲートウェイは、人が初めてチェーンと出会う場所です。その設計ルールは、あらゆるインタラクションが短く、わかりやすく、繰り返せるものであることです。TempleRaidのラウンドは六十秒です。結果は検証可能な乱数から導かれ、オンチェーンで決済されるため、結果が公正だったことを後から誰でも確認できます。一度プレイした人は、何も読まずにもう一度プレイできます。

今後のアプリケーションも同じパターンに従います。ロードマップには、2つ目と3つ目のアプリケーションが日付なしで挙げられています。いずれも同じトークンを受け入れ、同じウォレットで接続し、同じディストリビューション層に流れ込みます。

システム02 · AIディストリビューション

ディストリビューションは、あらゆるアプリケーションが抱えながら、解決できているものはわずかという課題です。Spartan OSの答えは、ユーザーがアプリケーションをまたいで何をしているかを学習し、次に関連するアプリケーションをユーザーの目の前に提示するレコメンド層です。TempleRaidで時間を過ごすプレイヤーには、2つ目のゲームが表示されるかもしれません。AIツールを使う人には、エージェントが表示されるかもしれません。この仕組みは、コンシューマー向けプラットフォームのフィードを動かしているものと同じで、それを共通のウォレットを持つオンチェーン・アプリケーション群に適用したものです。

このシステムは計画中です。ロードマップでは、ローンチ日は[date]と表示されています。プロモーターは、これを今日ユーザーが開ける機能としてではなく、想定されている成長エンジンとして説明すべきです。

システム03 · コンピュート・エンジン

AIアプリケーションには計算能力が必要です。コンピュート・エンジンは、その計算能力をプールし、その上でタスクをスケジューリングし、アプリケーションが使った分だけ支払うよう利用量を計測することを目的としています。長期的には、チームはこれをAnubis Chain全体のAIコンピュート層と位置づけており、Spartan OSがその最初の顧客となります。ロードマップでは、フェーズ2とフェーズ3に位置づけられています。日付は発表されていません。

システム04 · Agent Token Hub

ここは、Spartan OSの中でAIとトークンをつなぐ部分です。この文脈でのAIエージェントとは、依頼に応じてタスクを行うソフトウェアのことです。画像を生成する、質問に答える、取引を実行する、ゲームキャラクターを動かす、といったタスクです。Spartan OSでは、エージェントに独自のトークンを持たせることができます。トークンは、エージェントへの支払い手段であり、その利用量を測る手段であり、エージェントを作った人や支援した人がその収益を分かち合う手段です。第IV部で説明するToken Routerが、これらのステップをつなぐ仕組みです。

RMとGDが存在し、ルーターが発表され、アプリケーションがトークンを受け入れているという意味で、ハブは稼働しています。それぞれが独自トークンを持つサードパーティのエージェントによる本格的なマーケットプレイスが、ロードマップの目指す先です。

システム05 · 開発者ネットワーク

プラットフォームが自社の成果物だけに依存しなくなるのは、サードパーティのチームがいるからです。開発者ネットワークとは、外部のチームがSpartan OSを通じてAnubisにアプリケーションを持ち込めるようにする、ツール、インターフェース、ディストリビューション・チャネルの集まりです。具体的には、共通のウォレット接続、トークン、ローンチ後のAIディストリビューション層、そしてAnubis Labsによる支援へのアクセスを意味します。フェーズ2に計画されています。日付は発表されていません。

何が稼働中かと聞かれたときの答え方

TempleRaidは稼働中です。RMとGDは稼働中で、RocketSwapで取引されています。Token Routerは発表済みです。AIディストリビューション、コンピュート・エンジン、開発者ネットワークはロードマップ上にあり、日付は確認中です。



04

第 I V 部

TempleRaid と Token Router

最初に稼働したプロダクトと、Agent Token Hubを支える仕組み。一方はゲートウェイがどのような体験かを示し、もう一方は価値がその中をどう流れるかを示します。

TempleRaid

2026年9月6日、ゲームパートナーのGoPlayとともにローンチ。すべてのラウンドはAnubis Chain上で実行され、すべての結果は検証可能な乱数から導かれます。

60 s	RM · GD	オンチェーン
ラウンドの所要時間。参加し、待ち、結果を見る。	ほかのエコシステム資産とあわせて利用可能。変換の手順は不要。	実行、乱数、決済。どのラウンドも誰でも確認できます。

ラウンドの流れ

1. **ウォレットを接続する**
   Anubisネットワーク上のBitget Wallet、OKX Wallet、TokenPocket、Binance Wallet、またはMetaMask。ウォレットには、手数料用に少額のgasDAIが必要です。

2. **資産を選ぶ**
   RMやGDを含む、複数のエコシステム資産が利用できます。どれで参加するかはプレイヤーが選びます。ゲーム内に変換の手順はありません。

3. **ラウンドに参加する**
   ラウンドは六十秒間です。プレイヤーが確定した瞬間に、参加がオンチェーンに記録されます。その後、プレイヤーは待ちます。

4. **結果が確定する**
   証明可能な乱数から導かれ、オンチェーンで決済されます。結果と決済は、後からエクスプローラーで誰でも確認できます。

このゲームは、あえてシンプルに作られています。育てるキャラクターも、管理するインベントリも、チュートリアルもありません。ブロックチェーンを一度も使ったことのない人でも、ウォレットをインストールしてから数分以内にプレイを始められます。それこそが狙いです。複雑さはチェーンの中にあり、そこが本来あるべき場所です。

> 毎回、これを伝える
>
> 運に左右されるゲームにはリスクがあります。プレイヤーは、参加に使ったものを失う可能性があります。TempleRaid、Spartan OS、本資料のいずれも、リターンを約束するものではありません。プロモーターは、相手がプレイする前にそう伝えるべきです。後からではありません。

なぜ最初にゲームなのか

消費者向けに成功したプラットフォームはどれも、人が楽しみのために行う何かを通じてそこに到達しました。Spartan OSが最初のゲートウェイとしてゲームを選んだのは、ゲームがハードルの低さと速いフィードバック・ループを備えた、高頻度のインタラクションを生み出すからです。各ラウンドがトランザクションです。各トランザクションが、ディストリビューション層にとってのデータポイントになります。戻ってくるプレイヤーの一人ひとりが、次のアプリケーションが引き継ぐユーザーになります。

GoPlayの参加が重要なのも同じ理由です。ゲームパートナーは、既存のオーディエンスと既存のディストリビューションをもたらします。Spartan OSは、チェーン、トークン、決済層をもたらします。この提携によって、コールドスタートなしに最初のユーザーが集まりました。

Token Router（トークン・ルーター）

開発者は、AIエージェントを独自トークンを持つサービスに変えます。ルーターは、作成、利用、支払い、決済を一本の流れにつなぎます。



今日、AIサービスはサブスクリプションかAPIキーです。人は企業に支払い、企業がモデルを動かし、お金はそこで止まります。Token Routerは、この仕組みをトークンに置き換えます。エージェントが作成されると、そのエージェントのためのトークンが発行されます。アプリケーションやユーザーがエージェントを呼び出すと、価値がルーターを通じて移動します。エージェントが収益を上げると、その収益はトークン保有者に決済されます。すべてのステップがAnubis Chain上に記録されます。

ルーターを通るもの

AIゲーム
エージェントとして動作し、呼び出しごとに支払われるゲームキャラクター、対戦相手、コンテンツ生成機能。

AIツール
独自トークンを持つサービスとして提供される、ジェネレーター、アシスタント、分析ツール。

コンテンツ生成
サブスクリプションではなく、ルーターを通じて利用量が計測される画像、テキスト、音声の生成。

DEFIエージェント

RocketSwapなどで実行される自動化戦略。利用量と収益はオンチェーンで決済されます。

タスクエージェント

範囲の決まった作業を依頼に応じて行い、その作業に対して支払いを受けるエージェント。

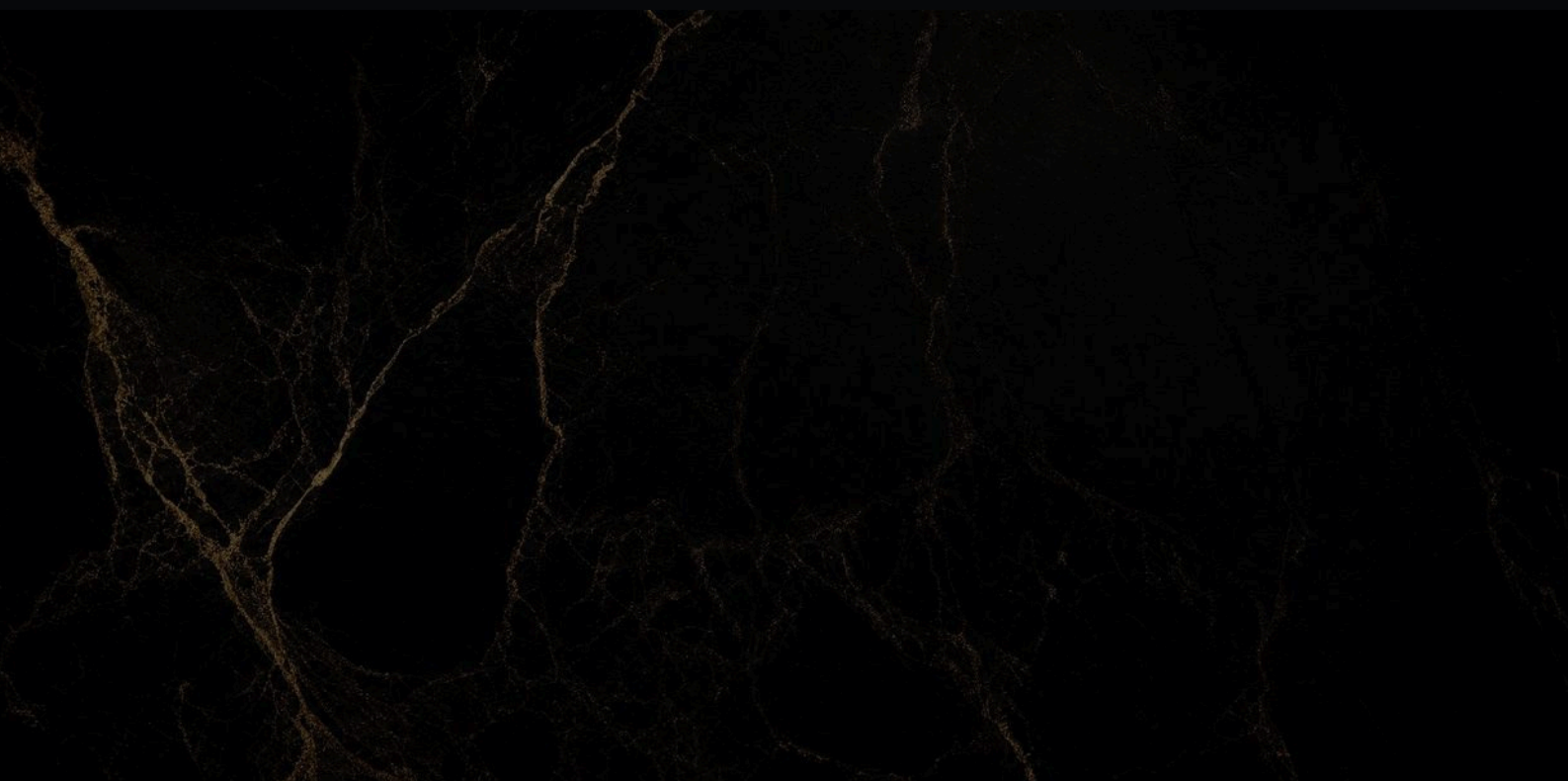
アプリ内サービス呼び出し

あらゆるSpartan OSアプリケーションが、あらゆるエージェントを呼び出せます。支払いはルーターが処理します。

参加者が得るもの

開発者にとっては、課金システムを構築することなく、独自の経済性を持つサービスとしてエージェントをローンチする手段。ユーザーにとっては、サービスの利用からその持ち分の保有までが記録され、決済される道筋。アプリケーションにとっては、1回の統合で呼び出せるエージェントのカタログ。ルーターがあるからこそ、Agent Token Hubは単なる一覧ではなく、ハブになります。

ルーターは、Spartan OSのXアカウントで発表されました。示されている5つの段階（作成、発行、呼び出し、決済、インセンティブ）を超える仕組みは、完全には公表されていません。プロモーターは、発表された内容だけを説明し、それ以上は語らないようにしてください。



05



第 V 部

RMとGD

2つのトークン、2つの役割。一方はユーザーが触れる資産。もう一方は意思決定を担う資産です。

2つのトークン、2つの役割

RM · エコシステム・トークン

使われる資産

Spartan OSのアプリケーションやプログラムの中で使われます。TempleRaidで利用できます。RocketSwapでUSDTと取引されます。Spartan OS上でローンチするすべてのアプリケーションが、RMを受け入れる見込みです。プラットフォームを利用するからこそユーザーが保有する、そういうトークンです。

GD · ガバナンス・トークン

決める資産

発行量は390,000枚で固定され、まずノード割り当てを通じて配布されます。Spartan OSにおける投票権を持ちます。TempleRaidでも利用できます。プラットフォームの将来に発言権を持ちたい参加者が保有する、そういうトークンです。

役割の分離は意図的なものです。支払いとガバナンスの両方に1つのトークンを使うプラットフォームは、価格が動くたびに顔ぶれが変わるガバナンス主体を抱えることになります。役割を分けることで、RMはアプリケーション間を自由に流通し、一方で固定された少ない供給量を持つGDは、より長期的な関心を持つ人々の手にとどまります。

各トークンの使われ方

	RM	GD
役割	エコシステム通貨	ガバナンス
供給量	Spartan OSの公表どおり	390,000、固定
初期配布	エコシステム・プログラムと市場	ノード割り当て
使われる場所	TempleRaidと今後のSpartan OSアプリケーション	TempleRaid
取引される場所	RocketSwap、USDTとのペア	Spartan OSの公表どおり
権利	利用	Spartan OSでの投票
コントラクトアドレス	技術ガイドを参照	技術ガイドを参照

システムにおけるトークンの位置づけ

5つのSpartan OSシステムはいずれも、少なくとも1つのトークンに関わっています。ゲートウェイはトークンを受け入れます。Agent Token Hubはトークンで決済します。ディストリビューション層は、ローンチ後、望ましい行動に報いるためにトークンを使います。開発者ネットワークは、サードパーティのアプリケーションにRMの受け入れを求めます。コンピュート・エンジンは、トークンで利用量を計測します。チームがトークンを共通の層と呼ぶのは、この意味においてです。トークンこそが、5つの別々のシステムを1つのプラットフォームにしているのです。

特記のない限り、数値はAnubis ChainおよびSpartan OSの公表どおりです。レートは変動し、上限があります。投資助言ではありません。

90日を経て

RMは2026年6月16日に$18.85でローンチしました。2026年9月14日時点のダッシュボードの読み取り：

$29M
RM流動性プール内のUSDT

500,000
RM保有者数

68%
オンチェーンでステークされたRM供給量の割合

トレジャリーはUSDTで1,000万ドル、供給量は610万、RMは$30超と公表、5月4日に$40で取引を開始したGDは$16,000と公表。いずれも2026年9月14日時点のSpartan OSの公表どおりで、エクスプローラー、DEX、dAppで確認できます。懐疑的な人でも反論できない数値は、ステークされている割合です。トークンの3枚に2枚は、売却を待つのではなく、ロックされて報酬を生んでいます。

プログラムの概要

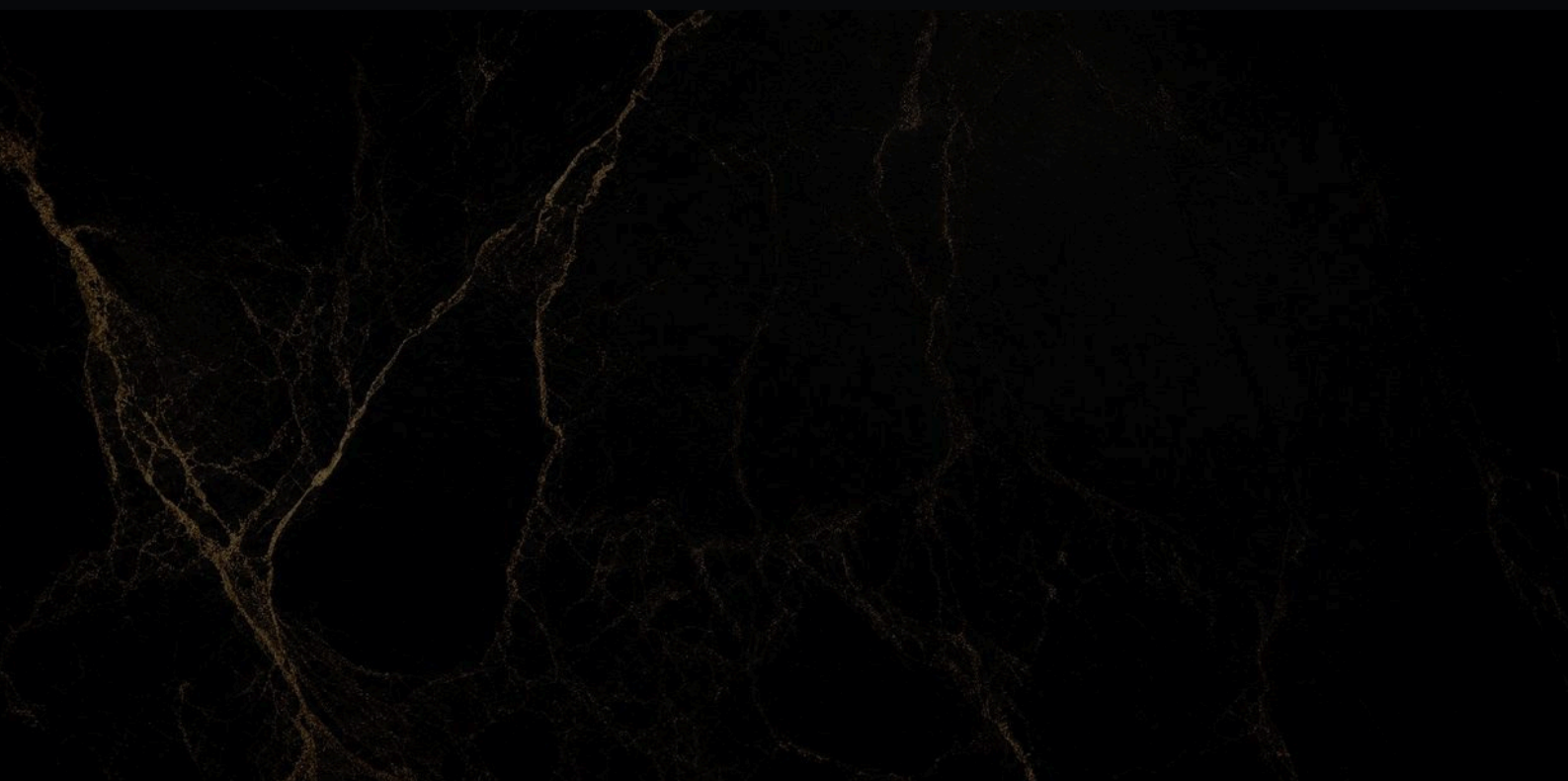
5つの収入源があり、いずれも12時間ごとに支払われ、そのうち4つは$1から参加できます。レートは2026年9月7日時点のSpartan OSの公表どおりです。レートは変動し、すべての長期ポジションには、参加時にUSDT建てで確定する上限があります。

収入源	参加条件	日次レート（公表どおり）	総支払額の上限
フレキシブル・ステーキング	$1から、ロックなし	12時間ごとに0.3%、一日あたり約0.6%	なし
長期ステーキング（180 / 360 / 540日）	$1から	一日あたり1.1% · 1.2% · 1.3%	参加額の4× · 4.5× · 5×
バーニングボンド	$500から	一日あたり1.5%、純額	2.5×（250%解放、純額150%）
レベル収入	チーム	3世代にわたり、ROIの8% · 4% · 2%	出金にはエネルギーが必要
ランク報酬（V1〜V12）	V1：$500のステーク、直紹介（あなたが直接紹介した人）3人、$10,000ずつの2ライン	V1で一日あたり約$15〜$25から	DAOプールから毎日支払い

流動性ボンドは別の商品です。市場価格に対して変動する割引率で購入するRMで、対応するステーキングと同様に支払われ、同じ上限が適用され、追加報酬はありません。獲得したRMはすべてタービンを通り、保有者はDEXで同量を購入して24時間待ちます。詳細、段階表、計算例は、リーダー向け資料とプロモーター用デッキに掲載しています。

これらの数字の伝え方

必ず上限とともに、必ず日付とともに、決して約束としてではなく。上限のないレートはただの話です。上限のあるレートは契約です。



06

第 V I 部

市場の背景とロードマップ

Spartan OSが位置する2つの市場を、プロジェクト自身が引用するベンチマークで測ります。続いて3つのフェーズを、発表されている場合は日付とともに示します。

2つの市場

一方にエンターテインメントのゲートウェイ。もう一方にAIエージェント・トークン。Spartan OSは、その2つが交わる場所に自らを位置づけています。

$3.5T
2033年までの世界のAI市場規模の予測（年平均成長率30.6%）。Spartan OSが引用する業界予測。

$3.4B
AIエージェント・トークンの時価総額（CoinGeckoのカテゴリー、Spartan OSデッキ作成時点）。

132M+
Steamの月間アクティブユーザー数。ゲートウェイがどこまで成長しうるかについて、Spartan OSが用いるベンチマーク。

2M+
Hugging Face上の公開モデル数。AIサービスのオープンなネットワークのベンチマーク。

+165%
2030年までのデータセンター電力需要の予測増加率。コンピュート層を構築する価値がある理由。

$780M
AIエージェント・トークンの日次取引高（CoinMarketCapのカテゴリー、Spartan OSデッキ作成時点）。

これらは背景を示す数値であり、Spartan OSの数値ではありません。出典はSpartan OSのプレゼンテーションでの引用どおりです：CoinGeckoおよびCoinMarketCapのAIエージェント・カテゴリー、Steamの公式統計、Hugging Faceの公開データ、業界予測。市場の数値は日々変動します。引用する前に、最新の数値を確認してください。

これらの数字の用途

これらの数値はいずれも、Spartan OSそのものを示すものではありません。それが入ろうとしている部屋の大きさを示しています。Steamは、コンシューマー向けゲートウェイが大規模になるとどうなるかを示しています。Hugging Faceは、AIモデルのオープンなカタログがどのようなものかを示しています。エージェント・トークンの数値は、トークン化されたAIサービスの市場がすでに存在し、すでに取引されていることを示しています。電力需要の数値は、計算能力が不足することを示しており、それがコンピュート・エンジンの根拠です。

プロモーターは、これらの数値をその目的にだけ使うべきです。「AI市場は3.5兆ドルになる」はAI市場についての事実です。RMについての事実ではありません。

O²：まず均衡、価格はその次

RMの背後には、適応型バランシング・プロトコル（O²）があります。Spartan OSはこれを世界初と位置づけています。Olympus DAOとOriginによる、プロトコル保有流動性とステーキング・コンセンサスのモデルをアップグレードし、市場が固定されたルールに合わせるのではなく、ルールが市場に合わせて変化するようにしたものです。

読み取るもの

時間加重平均価格、平均約定価格、買いと売りの出来高、買いと売りの比率、流動性の厚み。これらを3時間ごとに再評価します。価格はシグナルであり、最終判断ではありません。

機能

購入に税はかかりません。売却税は5%から始まり、価格が平均に対して5%を超えて下落すると、段階的に30%まで上がります。上乗せ分のうち65%はバーンされ、35%は長期保有者に支払われます。狙いは連鎖的な売りを緩やかにすることであり、出口を塞ぐことではありません。

できないこと

需要を生み出すこと。プロジェクト自身の言葉によれば、プロトコルは時間を稼ぐことはできても、持続的な支えを生み出せるのはコンセンサスだけです。プロトコルは需給のバランスを取り、流動性を守ります。価格を決めるのは市場です。

ロードマップ

3つのフェーズ。未リリース項目の日付はプロジェクトが確定するもので、確定するまでは[date]と表示しています。

フェーズ1 · 現在

ゲートウェイの確立

メインネット稼働 · 2026年4月
RMとGDトークン · 稼働中
GoPlayとのTempleRaid · 2026年9月6日
AIディストリビューション · ローンチ[date]

フェーズ2 · 次の段階

マトリックスの拡大

2つ目のアプリケーション · [date]
3つ目のアプリケーション · [date]
コンピュート・サービス・ネットワーク · [date]
開発者エコシステム・プログラム · [date]

フェーズ3 · その先

コンピュート・エンジン

グローバルなコンピュート連携
Anubis ChainのAIコンピュート・エンジン
チェーンのエンターテインメント・ゲートウェイとしてのSpartan OS

フェーズ1は、ゲートウェイが機能すること、つまり人が訪れ、プレイし、戻ってくることを証明する段階です。TempleRaidは、その証明が進行中であることを示しています。フェーズ2では、ゲートウェイをアプリケーションのマトリックスへと拡大し、サードパーティに開放します。フェーズ3では、それらのアプリケーションが必要とするコンピュート層を、チェーン全体のインフラへと変えます。

フェーズは論理的には順序立っていますが、時間的に順番どおりとは限りません。コンピュート・エンジンの開発は、3つ目のアプリケーションのリリース前に始まることもあります。プロモーターにとって重要なのは依存の順序です。フェーズ1のユーザーなしには、フェーズ2の何も機能しません。

日付について

本資料で[date]と表示している箇所は、日付が発表されていません。日付を書き込まないでください。プロジェクトが示していない日付を口にするプロモーターは、プロジェクトに代わって約束をしていることになります。

07



第 V I I 部

検証、リスク、用語集

読んだ内容をどこで確認できるか、何がまだ確認されていないか、
そして用語の意味。

確認先

Anubis Chain
公式サイト
anubischain.ai

Spartan OS
Xの公式アカウント
x.com/Spartan_Arena_

Anubis Chain
Xの公式アカウント
x.com/ANUBISCHAIN_

Anubis Bridge
USDTまたはDAIをチェーンに移す
app.anubisbridge.com

エクスプローラー
すべての数値を確認可能
browser.anubispace.org

項目	確認先	確認できる内容
チェーンID、RPC、ガスの単位	chainlist.org/chain/6714	登録されているネットワーク・パラメータ。チェーンID 6714、手数料の単位はgasDAI。
あらゆるトランザクション、コントラクト、アドレス	browser.anubispace.org	Anubisのブロックエクスプローラー。TempleRaidのすべてのラウンド、RocketSwapのすべての取引、すべてのブリッジ送金。
送付元チェーン上のブリッジ・コントラクト	etherscan.io, bscscan.com, polygonscan.com	Ethereum、BNB Chain、Polygon上のロック・コントラクト。アドレスは技術ガイドに記載。
監査	skynet.certik.com	GaleBridgeの監査（2025年10月）。RocketSwapの掲載。
RMの市場データ	geckoterminal.com/anubis	RocketSwapプールのリアルタイム価格、流動性、出来高。
公式発表	anubischain.ai · x.com/ANUBISCHAIN_ · x.com/Spartan_Arena_ · x.com/Anubis_Labs	リンクとアドレスの唯一の情報源。それ以外はすべて未検証です。

検証済みのものと、そうでないもの

現時点で検証可能

- チェーンID 6714と、手数料単位としてのgasDAI
- EVM互換性（あらゆるEthereumツールが接続可能）
- Ethereum、BNB Chain、Polygon上のブリッジ・コントラクト
- CertiKによるGaleBridgeの監査（2025年10月）

- CertiK Skynet上のRocketSwap
- エクスプローラー上のTempleRaidのラウンド
- RocketSwapでのRMの取引

プロジェクトによる公表

- OriginのAVEスナップショットの数値と、1,600万人のユーザー基盤
- エクスプローラーで確認できる範囲を超える、ネットワーク・データレポートの数値
- $300Mのエコシステムへの拠出
- 137のコントラクトと、CertiKへの監査申請
- 第V部のすべてのレート、上限、ダッシュボードの数値
- DeBoxの登録ユーザー2,600万人
- 日付のないすべてのロードマップ項目
- 発表済みの5つの段階を超える、Token Routerの仕組み

2つ目のリストは、疑わしいものの一覧ではありません。執筆時点で独立した情報源と照合できなかったため、本資料がプロジェクトの公表どおりに掲載している主張の一覧です。そのいずれかについて質問されたプロモーターは、まさにそのとおりに伝えるべきです。

リスク

Anubis Chainは新しいネットワークです。新しいネットワークは実績が短く、バリデーターの数が少なく、負荷がかかったときの挙動が検証されていません。ブリッジは業界で最も攻撃を受ける構成要素であり、Anubisに移される資産はすべてブリッジを通ります。供給量が少なく流動性の薄いトークンは、価格が大きく動きます。TempleRaidは運に左右されるゲームであり、プレイヤーは参加に使ったものを失う可能性があります。AIディストリビューション、コンピュート・エンジン、開発者ネットワークはまだ存在しません。ロードマップのどの項目も、遅れたり変更されたりする可能性があります。

これらはいずれも、この段階のプロジェクトとしては珍しいことではありません。このプロジェクトを知らない人に紹介する人は誰でも、これらすべてをはっきりと口に出して伝えるべきです。

すべてのユーザーのための安全ルール

承認する前に、すべてのアドレスの先頭4文字と末尾4文字を確認してください。リンクは、anubischain.aiと上記のXアカウントからのみ取得してください。シードフレーズ（復元フレーズ）はオフラインで保管してください。公式アカウントがそれを尋ねることは決してありません。新しいルートは、必ずまず少額で試してください。

用語集

エージェント	依頼に応じてタスクを実行するAIソフトウェア。Spartan OSでは、エージェントに独自のトークンを持たせることができます。
Agent Token Hub（エージェント・トークン・ハブ）	エージェントが作成され、トークン化され、呼び出され、決済されるSpartan OSのシステム。Token Routerがその中核となる仕組みです。
Anubis Labs	Anubis Chainのインキュベーション部門。プロジェクトを選定し、資金を提供し、支援します。Spartan OSは、その最初のコンシューマー向けプロジェクトです。
ブリッジ	送付元チェーンで資産をロックし、送付先で対応する資産を発行することで、あるチェーンから別のチェーンへ資産を移動させるサービス。
チェーンID	ウォレットに対してネットワークを識別する番号。Anubisメインネットは6714です。
EVM	Ethereum Virtual Machine（イーサリアム仮想マシン）。Ethereumのコントラクトが動作する環境。EVM互換のチェーンは、それらのコントラクトをそのまま実行できます。
エクスプローラー	チェーン上のすべてのトランザクション、アドレス、コントラクトを表示するウェブサイト。Anubisのエクスプローラーはbrowser.anubispace.orgです。
gasDAI	Anubisが取引手数料に使う単位。ドル建てステーブルコインであるDAIにペッグされています。公式ブリッジを通じて入手します。
GD	Spartan OSのガバナンス・トークン。390,000枚で固定。投票権を持ちます。
ゲートウェイ	人が自ら使いたいと思って、繰り返し開くアプリケーション。Spartan OSでは、最初のシステム。
レイヤー1	別のチェーンに依存せず、自らのトランザクションを決済するブロックチェーン。Anubisはレイヤー1です。
流動性プール	他の人がその間で取引できるように、取引所のコントラクトに預けられたトークンのペア。RocketSwapの仕組みです。
PLONK	再利用可能な単一のセットアップと高速な検証を特徴とする、ゼロ知識証明システムの一系統。Anubisの基盤となっている証明システムです。
RM	Spartan OSのエコシステム・トークン。アプリケーションで使われ、TempleRaidで利用でき、RocketSwapで取引されます。
RocketSwap	Anubis Chainのネイティブな分散型取引所（DEX）。Uniswap V2の設計。
選択的開示	Anubisのプライバシーモデル。取引はデフォルトで公開されます。ユーザーは身元を秘匿でき、その間もコントラクトの動きは監査可能なままです。
TempleRaid	Spartan OS初のアプリケーションです。1ラウンド六十秒の、運に左右されるオンチェーンゲームで、2026年9月6日にGoPlayとともにローンチされました。
Token Router	エージェントの作成、トークン発行、呼び出し、決済、インセンティブを結びつける仕組みです。

タービン	獲得したすべてのRMをクレーム（受け取り）する場所です。保有者はDEXで同額を購入し、リターンは24時間後に解放されます。
検証可能な乱数	改ざんされていないことの証明とともに生成される乱数です。TempleRaidの結果の決定に使われます。
ゼロ知識証明	背後にある情報を明かさずに、ある主張が真であることを示す証明です。Anubisのプライバシーモデルの基礎となっています。
O²	RMを支える適応型バランシング・プロトコルです。4つの層からなり、3時間ごとに再評価され、需給のバランスを取り、流動性を守るよう設計されています。

Anubis Chain上のSpartan OSの国際的なプロモーター・リーダーコミュニティのために作成しました。日本語版、2026年9月。数値は、公開情報源の記載がない限り、Anubis ChainとSpartan OSが公表したものです。本資料はプロジェクトを説明するものであり、購入を推奨するものではなく、その内容はいずれも投資助言ではありません。[date]と記されたロードマップ項目は、日付が発表されていません。関連資料：ワンページャー7種、プロモーター用デッキ、技術ガイド、リーダー向け資料。

anubischain.ai · x.com/ANUBISCHAIN_ · x.com/Spartan_Arena_ · x.com/Anubis_Labs · app.anubisbridge.com · browser.anubispace.org

